

審議会等会議録

審議会等の名称	山口市合流式下水道緊急改善事業アドバイザー会議
開催日時	平成22年2月10日（水曜日）9：55～11：40
開催場所	山口市小郡下郷 山口市小郡浄化センター
出席者	<p>◇山口市合流式下水道緊急改善事業アドバイザー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井上美代子氏（地元代表者：山口市連合婦人会 小郡支部会長） ・片山淳氏（学識経験者：山口芸術短期大学教授） ・國安克行氏（地元代表者：山口市小郡区域区長協議会会長） ・山本豊氏（有識者：元山口県職員） <p>※アドバイザーは、小郡地域まちづくり審議会委員から選任した。</p> <p>◇山口市合流式下水道緊急改善事業オブザーバー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩崎旬氏（日本下水道事業団計画設計課） ・福島照治氏（下水道施設課副参事兼小郡浄化センター所長） <p>◇山口市 河崎上下水道事業管理者 御手洗上下水道局長 乃美上下水道局参事</p>
欠席者	アドバイザー 岡本斌氏（山口市社会福祉協議会小郡支部支部長）
事務局	下水道整備課：宮田課長 山根副主幹 原田主査 浅原主査 峰技師
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに（アドバイザー会議） 2 小郡地域の下水道の現状について 3 合流式下水道について 4 合流式下水道緊急改善の目標について 5 合流改善対策
内容	<ol style="list-style-type: none"> ① 開会 下水道整備課長挨拶 ② 事業管理者 委員委嘱状交付 ③ 事業管理者挨拶 ④ 会議録作成とその公開 会議録作成のための録音の承認 ⑤ 委員紹介 ⑥ 職員・オブザーバー紹介 ⑦ 会長選任 会長挨拶 ⑧ アドバイザー会議の開催予定・配布資料の確認 ⑨ 議事： <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに（アドバイザー会議） 2 小郡地域の下水道の現状について （パワーポイントでの説明） ⑩ 質疑応答 <p>< Q 1 ></p>

小郡地域の合流式下水道について、創設当時はこの方式でよかったのか。

(A 1)

合流式下水道は、191都市で採用されており、本地域では昭和30年から下水道事業に着手しているが、当時は、合流式下水道が主流でありこの方式を採用している。

< Q 2 >

新山口駅南側は合流改善区域外であるが、ここは分流式で整備されているのか。

(A 2)

説明資料（パワーポイント）の図面にて説明。

黄色部分の約100ヘクタールが合流式であり、新山口駅南側は分流式です。

早くから整備していた小郡地域の中心部だけが合流式です。

⑪ 議事：3 合流式下水道について

4 合流式下水道緊急改善の目標について

5 合流改善対策

(パワーポイントでの説明)

⑫ 質疑応答

< Q 3 >

合流管渠はそのまま改善事業を実施するのか。雨水分離はどこでどのような方法で実施する計画なのか。具体的に説明願いたい。

(A 3)

説明資料（パワーポイント）の図面にて説明。

対策案で示した箇所（32ヘクタール）で雨水分離を実施する計画。具体的には、側溝を設置して合流管に雨水が入らないようにして分離する。

合流区域は、側溝が整備され宅内排水設備がすでに分離されている箇所もあるが、最終的には合流管に流入する。対象区域は、その中でも側溝または雨水管を設置すれば、そちらに雨水を流すことが比較的容易に可能なところです。

合流管には今回の対策事業で手を加えない。

< Q 4 >

宅内排水設備の改造には個人負担が発生すると思われるが、どうするのか。

(A 4)

宅内排水設備が分離されていない場合は、雨水、汚水との切り替えが必要になってくるが、そのようなケースが無い箇所を選んでいる。

< Q 5 >

32ヘクタールで雨水分離を実施するというが、対象となる区（自治会）はどのあたりになるのか。この対象地区を選んだ理由はなぜか。

(A5)

津市・中央通・柳井田・大正・新丁の各周辺。(図面にて説明)

本地域は、中学校・小学校・高校・病院など、比較的大きな施設がある。実施での検討は必要であるが、一度に大きな面積において雨水分離が可能であることが、大きな理由です。

<Q6>

この対策を実施すれば、合流施設でも分流並みの水質が達成できるのか。

(A6)

合流改善の目標は①分流並みの水質、②未処理放流回数の半減、③夾雑物の対策であり、目標を達成するため、様々な対策を検討した上で案を示している。

<Q7>

目標を定めたが、その達成後に、住民の目に見える変化が現れるのか。水質検査を実施するなど、数値化して見えるようにすることは考えていないか。

(A7)

現在、改善計画(案)を作成中であり、今年度中に計画策定を行い、平成25年度までに事業を完了する予定であり、透明性の確保の観点から、水質の結果など実施状況は市のHPで公表することとしている。

<Q8>

高速連続処理やろ過池や滞水池など、施設の整備案について実際にはどのような施設を整備する計画なのか。現在ある施設を活用するのか。

また、遮集量の増強などの案を事務局は示したが、どのような選定でそうなったのか質問したい。

(A8)

改善計画の対策案としては、高速ろ過池の新設、圧送管渠の増強を計画しており、経済的な方法で選定しているが、経済比較した資料を踏まえて2回目の会議で詳しく説明する。

<Q9>

対策メニューとして、遮集量の増強、高性能連続処理等、これは具体的にはどのようなものなのか。他にどのような方法、施設があるのか。

(A9)

対策案は、遮集量を9Qに増強することとしており、9Qになると現在の施設では処理しきれない。そこで処理するために雨水滞水池、高速ろ過等の施設を整

	<p>備する方法があり、対策案は高速ろ過施設を整備する計画。また、遮集量を増強するために、能力不足となっている遮集管を増強します。</p> <p>< Q 1 0 > 6 Q 遮集なら現有施設で対応可能なのか。 (A 1 0) 現有施設は予備ポンプを含めると 9 Q 相当の能力があるが、遮集管の能力が不足しているため 6 Q 相当をなんとか対応している。また、9 Q は、処理場の現有施設では対応できない。</p> <p>< Q 1 1 > 標準法は 9 割以上の除去率だが、高速ろ過施設の除去率など、性能はどうか。また、雨水分離対象地区は、大雨時には浸水するところであり、浸水対策はどう考えているのか。 (A 1 1) 標準法の除去率は、生物処理を行うので BOD 9 割以上に対して、高速ろ過は、物理的処理なので性能は落ちる。BOD については 6 割前後である。 合流改善事業は水質改善であり、根本的な浸水対策にはならない。 雨水については、別事業である浸水対策事業で対応していきたい。</p> <p>《小郡浄化センター施設見学》</p> <p>⑬ 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回、第 2 回アドバイザー会議は 2 月 1 9 日（金） 1 0 時から ・今回の内容を踏まえ、合流改善計画案のまとめをさせていただく。
担当課	山口市上下水道局 下水道整備課 管理計画担当